

自己評価書

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取組を行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めてください。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- グループホームの自己評価は、各ユニットごとに行います。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日ごろの実践や改善への取組を示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支え合い	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取組の事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取組状況を具体的かつ客観的に記入します。
(実施できているか、実施できていないかにかかわらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○を付けます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取組内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ひまわり
(ユニット名)	ひだまり
所在地 (県・市町村名)	宮城県仙台市泉区住吉台西4丁目3-1
記入者名 (管理者)	庄司 浩介
記入日	20年 10月 20日

地域密着型サービス評価の自己評価書

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくり上げている</p>	事業所独自の理念だが、「事業所の利用者」ではなく、「地域住民として」ということを意識した理念を掲げている。	○	開設当初からの理念であるが、今年度スタッフにおいて見直しを行い、現時点での理念の変更等は必要なく今の理念をさらに追求したいとの意を込めて変更はしていない。
2	<p>○理念の共有と日々の取組</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	会議等で理念の見直しを行い共有を図っていると同時に、理念の実現に向けて各カテゴリー(食事・入浴等)で具体的な支援目標を作成し、支援を行なっている。	○	理念の更なる実現をめざすために、スタッフ全員が共通の方向性を持てるように努める。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	利用パンフレットや広報誌に理念を掲載しているとともに、ホームの玄関や事務所にも分かりやすく掲示している。	○	理念を更に理解してもらえるように、状況に応じて分かりやすく具体化して家族や地域の方々に発信していく。
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所との付き合い</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的な付き合いができるように努めている</p>	近所の方々への日々の挨拶をはじめ、回覧板を回しに行ったりして気軽に声を掛け合っている。また近所の方が子どもを連れて遊びに来てくれたりしているので、それらの機会を大切にし日常的な付き合いできるように努めている。	○	気軽に立ち寄ってもらえるような働きかけや工夫を更にする必要がある。
5	<p>○地域との付き合い</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域の一員という意識を持ち、地域で行なわれる行事その他には積極的に参加するようにしている。		コミュニティーセンター、児童センター、小学校の防犯、町内会行事(夏祭り、芋煮会、地域清掃等)、ゴミ集積所の掃除当番などへの参加を継続している。

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域でのひまわりの存在のアピールはできているが、地域に貢献できるような具体的な活動はまだできていない。</p>	○	<p>散歩時にゴミ拾いをするなどしているが、地域高齢者を対象としてという活動はないので考えていく。町内会の方からは、地域行事において、車椅子講座などはどうか、というお話がある。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価を2ヶ月に1回実施して、定期的なサービス評価を行なっている。</p>	○	<p>自己評価が定着してきたが、その評価を活かしきれいでないので評価の活用を行なっていく。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取組</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月1回運営推進会議を開催、地域の方やご家族に利用者やサービスの実態、取組み等を報告して話し合いを行なっている。その際、ご家族や地域の方からいただいた意見を受け入れ、活かしている。</p>		<p>現状維持。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>入居の紹介を受けたり、入居後の情報提供等、入退居に関することについて相談に乗ってもらった。</p>		<p>現状維持。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>1ヶ月に1回の内部研修において、成年後見制度などの制度の研修も行い、職員も学べる機会を作っている。</p>		<p>全職員が学べるような機会を作っている。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ホームの委員会の「守」で事故対策及び虐待について話し合いが行なわれ、内部研修でも身体拘束や虐待についての勉強会も行い、意識啓発に取り組んでいる。</p>		<p>委員会メンバー以外の全スタッフにも学べる機会を作っている。</p>

項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>提供できるサービスの限界を伝え、利用者や家族の意見や疑問に合わせて、十分な話し合い新たなサービス提供の提案などを行い、出来る範囲での不安や疑問の解消を行なっている。また、利用後の相談窓口の案内を行なっている。</p>	<p>利用開始時に管理者以外での窓口を案内することで、管理者が不在時でも相談ができる体制をおき、疑問や不安が解消するまでは同一スタッフでの対応としている。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員及び外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の不満は、個人の連絡帳へ内容を記載して対応も記載している。スタッフ間での統一した対応を行なう。また、内容によっては運営推進会議にて報告している。</p>	<p>利用者からの不満は苦情・アドバイスとして受け止めて、ユニット会議や運営推進会議にて報告している。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回で利用者の写真付きのポストカードを作成し、裏にメッセージを記入して生活状況を報告している。金銭出納帳とレシートなどと一緒に月初めに送付、面会の少ない家族に関しては管理者から電話や書面を使用して近況報告を行う。また、ホームページを作成してインターネットでの連絡もできるようにしている。</p>	<p>スタッフの異動についても広報誌にて連絡を行なっている。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員及び外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見や不満、苦情は随時受け付けており、運営推進会議での取り上げや事前に意見書にて意見の確認を行なっている。</p>	<p>今年度は運営推進会議に家族参加が増えて、直接意見が引き出せているので、意見書の使用頻度は減少している。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聴く機会を設け、反映させている</p>	<p>現場の意見は経営者や管理者が職員の意見を聞き状況の把握を行い、経営者との話し合いを随時行なう。また、ユニット会議や委員会で提案して確認を取っている。</p>	<p>常に向上心をもって意見を言い合える環境作りに努めており、ユニットリーダーと管理者の連携強化でRノートを作成して細かい摺りあわせを行なっている。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>基本的には勤務時間内での対応を行なっているが、用途や状況に応じて調整し、時には隣のユニットの協力を依頼したりと出来る限りの実現を行なっている。</p>	<p>退職後の補充が十分にできない状況が続いているが、人員確保と同時に退職者がでない環境作りを強化する。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者がなじみの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ユニット間での行き来を適度に行ない、異動に関しての利用者の不安の軽減に努めている。退職の際は周りのスタッフで協力してメンタル的なダメージの軽減に努めている。</p>	<p>退職者の出ない環境作りが重要となるが、退職者から利用者への説明なども指導していく必要がある。</p>

項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取組</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修などに積極的な参加を行っており、報告書・会議での報告にて全スタッフへ周知している。また、月1回でスタッフの学びたいことや日々の悩みをテーマに内部研修を行い研修の機会を確保している。</p>	<p>現場のスタッフ内での現場でのリアルタイムな指導が出来るように、スタッフの関係性やスキルアップを行なえる研修内容も組み込んでいく。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている</p>	<p>外部研修やGH協議会などで知り合った同業者との交流を図り、相互訪問や意見交換を行い、今年度はスタッフ交換研修を行なった。</p>	<p>今後も交流機会を持ち、継続的な関わりができるように情報交換を密にしていく。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取組</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>管理者は利用者、スタッフの気持ちの理解に努めて、具体的な方法や対応策を打ち出して、困難ケースなどへの対応のきっかけを作ることで、負担の軽減を図っている。</p>	<p>利用者の思い、スタッフの思い、家族の思いを受け止めて、今出来ることや可能なことを実現できるように環境を作り、支援体制を作っている。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取組</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>管理者は基本的に年1回の面談を行い、個人の目標達成の評価やアドバイスを行なう。また、それ以外でも個別に状況に応じて方向性を面談を行い再確認や目標に再設定を行っている。</p>	<p>各自が各自の能力を十分に発揮できるような働きかけを継続的行なう。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている</p>	<p>何が不安なのか明確にしてそれについて事業所はどのように対応していくのか納得するまで説明している。まずは利用する本人の理解を心がけ、必要に応じて利用までに何度か訪問して顔を覚えてもらうようにしている。</p>	<p>利用者本人が何に不安を抱いていて何に困っているのかを聞くことができる雰囲気作りに努めている。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている</p>	<p>利用者同様にまずはゆっくり話を聞き、家族がどのようなことで困っているのか、どうしてほしいのか等の相談を受け、家族が理解できる言葉で話をし、信頼関係を築いていく。</p>	<p>家族が何に不安を抱いていて、何に困っているのかを聞くことができる雰囲気づくりに努めている。</p>

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時は状況や状態を踏まえて、今GHとして出来るサービスや必要なサービスを具体的に説明を行い対応している。		見学も含めて事業所のことをよく見て、よく聞いて理解してもらえるように努めている。
26	○なじみながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になじみながら家族等と相談しながら工夫している	可能な限り本人への理解と説明を進め、本人も実際見学に来ていただくように相談をしている。		気軽に見学に来れる環境作りと本人の意志を尊重することを大切にしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支え合う関係を築いている	基本的に物事は一緒に行くことを意識しており、「してあげる」ではなく「一緒に行く」ことを実行している。利用者ができないことは職員が手助けをし、料理面など利用者から学ぶことがたくさんあり支え合って生活している。		学ぶ機会を大切にし、現状維持に努める。
28	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係は少しずつ深まっており、面会時や行事、運営推進会議などにおいて情報を共有し喜怒哀楽を共にしている。		家族との会話の機会を大切にし、現状維持に努める。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	少しずつ、家族と本人の関係を知るようになってきており、関係の継続に努めるようにしている。	○	家族間の仲があまり良くないような場合は、それ以上悪化しないように努める。
30	○なじみの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきたなじみの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	実家やよく行った場所など馴染みの場所には個別外出として出掛けている。馴染みの人に関しては、電話が来たり面会に来たりして関係継続されているケースもある。	○	馴染みの人との関係継続が出来る人には積極的に手紙や電話等を通じて関係継続できるように努める。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士がかかわり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の口論が見られるが、利用者同士の関係を把握しており極力口論になる前に介入できるような予防的な対応に努めている。また、1人で過ごすことが好きな方にも孤独にならないように仲介している。		予防的な介入、フォロー、アフターケアの現状維持。

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている	サービス利用終了時には直接的な支援はできないが、相談やアドバイスの関わりは行なえることを説明している。		現状維持。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から、本人の意向や希望を汲み取るようにしている。困難な場合でも、選択肢を設けたり表情や言動で見るなど極力本人の意思を確認するようにしている。		現状維持。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴やなじみの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴などの把握をアセスメントや家族からの情報を基に把握して、日々のケアに活かせるようにしている。		その情報を家族を交えて確認していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々のケアから現状を把握し、記録にも残すようにしている。		心身状態や有する能力に関して更に把握に努める。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアの在り方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人のプランとして考えており、ライフプランと位置づけて、本人のここでの生活ということで立案している。また、本人との何気ない関わりの中で本人意向を確認して、家族との何気ない会話の中で家族の意向を確認している。		プランの中で本人やスタッフが出てくることは多いが、家族が出てくるのが少ないので、家族協力も積極的に働きかけていき、本人、家族、地域、スタッフが協働できるプランとしている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月ごとの見直しをベースとしており、状況に応じて見直しの時期を調整している。また、必要性を家族と話し方向性を決めてすすめている。		リスクマネジメントも含めて予見して、予防の視点を持ってはやめの検討ができるように日々の観察を強化していくとともに家族への説明も行なっている。

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気付きや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日「声や表情・気持ち・行動など」「パートナー(介護者)の気付き・対応」のように分けて記録している。また、記録のほかにスタッフ同士で直接伝達したりと、情報の共有に努めている。		介護計画に沿ったケアを実施、記録も介護計画に沿った記録を行なうように努めている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況に応じて、どのような支援が必要かを明確にして柔軟な支援ができる準備を行っており、必要に応じては他事業所や家族、地域の協力を得るように意識している。		現在の事業所の可能なことを明確にして、機能の開発や地域の資源の発掘を行ない、包括的に支援できる体制を強化している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向や必要性を基に、ボランティア、警察、消防等に協力を要請している。		民生委員の協力など、また新たな関係を構築していく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現状として他サービスの利用はない。		介護保険外のサービス(訪問歯科等)のサービスの利用や開発を行なっていく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議で2ヶ月に1回でサービス状況を報告したり相談したりして行っている。また、管理者が地域包括に定期的に訪問して連携を取ったり、地域包括主催のネットワーク会議に参加している。また地域包括より認知症ケースの相談受けたりして連携を取っている。		地域包括での介護予防活動で「認知症」のテーマでの活動を行なっていこうと話している。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に慣れ親しんだ医師(医療機関)による診察の継続的な支援をしている。		現状維持。

項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		<p>認知症の個々のタイプに合わせた治療ができるように</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		<p>現状維持。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>退院に向けて情報収集を強化して、退院後すぐに支援できるように、どんなケアが必要かなどを話し合う機会を設けている。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期の在り方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>本人や家族に悔いの残らない生活を送ってもらえるような支援を継続する。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>報告・連絡・相談の流れを更に強化していく。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>在宅復帰のために、行政(障害高齢課)や福祉事務所、地域包括支援センターと連携して、在宅支援と在宅生活開始後のサポート体制を検討した。</p>

項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない	さりげなくを基本に、声がけ・言葉の使い方、人前であからさまな介護にならないように気を配っている。	○ さりげなさや気配りがまだまだ足りない。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働き掛けたり、分かる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	様々な場面で自己決定ができる機会を作っている。また、個人に合わせて選択しやすい働きかけも出来ている。	現状維持。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	ユニットの基本的な1日の流れはあるが、本人の流れに職員が合わせるような意識の持ち方や対応をしている。	引き続き、業務に目を向けるのではなく、利用者にも目を向けることを大切にする。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	日常の身だしなみに関しては、洗顔や整髪など基本的なことは支援できている。おしゃれ好きな方に関しては、本人の意向を極力取り入れている。理美容は、他事業所の介護サービスを利用したり、希望の店へ足を運んだりしている。	他事業所のサービスを利用するとともに、なるべくなら本人が望む店に行き社会との繋がりも大事にする。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や後片付けに関しては、ほぼ一緒に行っている。日々の食事を一人一人の好みに近づけるため個別の対応も行っている。	主婦としての力をまだまだ発揮できる方が沢山いるユニットなので、最大限に活かすことができるように機会を大切に意識を再度持つこと。一人一人の好みの把握とそれに近づける工夫の再確認。
55	○本人のし好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつは、食べたいものを聞いたりして楽しめる機会を設けている。一緒に作る事もある。飲み物も種類を豊富にし希望に沿って提供している。お酒に関しても、毎晩の晩酌の習慣があった方には毎日呑んでいただいている。	おやつと一緒に作る機会を増やす取り組み。その時間を作るスタッフの余裕。

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排せつの支援 排せつの失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排せつのパターン、習慣を活かして気持ちよく排せつできるよう支援している	排泄の失敗が予測される方に関しては、前もって声がけをして誘導するようにしている。排泄パターンを把握しつつある。おむつ使用者は現在のところいない。	○	排泄のパターンが把握しきれていないため、さらに気持ちの良い排泄環境を作るために把握に努める。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は特に決まっていなく毎日開放している。その日の入浴時間帯や順番は希望を取り決定。全員が入浴するため時間にゆとりがないのが現状。夜間も入浴できるよう開放している。入浴剤を使用し五感刺激にもアプローチしている。	○	入浴を楽しんでもらえるような入浴支援に近付ける。ゆとりを作る工夫。夜間入浴に関しては開放しているものの入浴利用者はあまりいない。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼寝や就寝時間はひとりひとりのペースで流れている。ただ、体操の時間だけは決まっており、その時間に休息したい人がいても、するのが難しい状況。(集団に固執する利用者もいるため。)	○	何かが決まっている時間でも、ひとりひとりが安心して休息をとることができるように職員の介入による支援が必要。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常で各自役割をもって生活している。利用者間でも役割が明確になっている。		スタッフからお願いしたのがきっかけだが、自分の役割と認識し日課となり行っている。更なる可能性の発掘。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かり事業所管理の人、小額のお金を自分で持っている人という。買い物の際は自分で支払いできるようにしている。希望のものを購入している。		買いたいときに買えるように支援していく。欲しいものがあるが買えない等、金銭面での問題がある方への配慮。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出掛けられるよう支援している	日常的に散歩や買い物へ行っている。散歩は決まったコースばかり行わずその都度決定。同時に地域の防犯パトロールも行なっている。お弁当を持ってピクニック、外食を行うこともある。集団での外出だけではなく個別、少人数での外出も行なっておりそれぞれの希望に応えられるよう支援している。		日常的な外出、個別外出の継続。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出掛けられる機会をつくり、支援している	全員での外出、個別での外出と利用者の希望を基に実施。余裕を持った計画、下見など行いリサーチを進めている。	○	充実したものとなっている。希望を叶えられていないケースもある。実現に向けた支援の検討。

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えがある時は、電話は自由に使用することができる。家族へ向けての手紙を書いている。	○	電話、手紙等を有効に使い、古くからの友人とのつながりを継続する支援ができれば良いと思う。
64	○家族やなじみの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人のなじみの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族はいつでも気軽に訪問に来ている。知人や友人が訪ねてくることもまれにある。	○	訪ねてきてくれるような知人や友人との関係をつなげる工夫。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及びすべての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止についての基礎知識や禁止の対象となる具体的な行為のプリントを事務所に貼ったり職員に配布したりして意識を促している。また、守の会で現状や知識の確認を行なっている。		現状維持。
66	○鍵を掛けないケアの実践 運営者及びすべての職員が、居室や日中玄関に鍵を掛けることの弊害を理解しており、鍵を掛けないケアに取り組んでいる	居室の鍵はなく、日中玄関に施錠することは全くない。		鍵をかけずに対応できるように、玄関の前の扉には違和感がなく自然な音が出る鳴り物を設置している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	見られているということを感じさせないように、同じ空間にいながら状況把握に努めている。居室を中心に過ごされる方や死角にいる利用者の安全確認も自然な形で介入するようにしている。		利用者のそのときの心理状態を把握し、関わり過ぎないように気をつける。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取組をしている	個々の認知症の程度に応じて必要最低限の管理をさせていただいている。		ユニット内にある注意が必要なものも、あらかじめ在庫確認しておりなくなったときに変化に気がつけるようにしている。
69	○事故防止のための取組 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	守の会において、ヒヤリはつとやアクシデントレポートのリスクマネジメントを行い、同じことが起こらないように事故防止に努めている。	○	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等が起こったときのマニュアルを明確に提示したほうが良い。

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、すべての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	現状としてコミュニティーセンターでの救命講習に参加している。		ホームでの救命講習の開催を実施していき、スタッフだけではなく利用者の参加や見学を進めていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろから地域の人々の協力を得られるよう働き掛けている	火災、地震時を予測した避難訓練を毎月1回実施している。本当の地震があったときに隣人から声をかけてもらえることもあり、協力を得られている。	○	夜間想定 of 訓練は今後随時実施していく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こり得るリスクと安全対策の説明を契約時に行い、家族にもリスクの把握を理解していただいている。また状態変化に伴ってその都度説明を行なう。		家族の協力をいただけるように家族との連携を密にして最小限リスクと最大限の自由を支援する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を把握した上で、状態に変化が見られたときは看護職員に相談し適切な対応を仰いでいる。また管理者へも報告しスタッフ間の情報共有にも努めている。		現状維持。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が使用している薬の目的を理解している。分からないときには随時確認するようにしている。	○	副作用については理解に至っていない。確認する機会の確保。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働き掛け等に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響を理解しており、薬に頼らない排便コントロールを心掛けてそれでも改善されない場合は看護職員と相談し、その人に合った適切な下剤の活用を行なっている。		排便コントロールとあわせて、身体を動かす工夫を更に継続していく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ひとりひとりの口腔状態に合わせ、毎食後に口腔ケア(歯磨き・うがい)を行なうようにしている。		現状維持。

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランスに関しては管理栄養士にチェックしてもらっている。水分量も体重から目標水分摂取量を算出し、ひとりひとりの状態に応じた支援をしている。		現状維持。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	各感染症対応マニュアルがある。インフルエンザにおいては、予防接種を行なっている。	○	さらに理解を深めるためにマニュアルをどう活用できるか考える。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所や調理器具、冷蔵庫等の衛生管理を毎日行なっている。食材の関しても毎日の買い物で新鮮なものを提供するようにしている。		現状維持。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には各ユニットの手作り看板設置、手作りのポストや季節の花等を飾り明るい雰囲気です。また、目立ちすぎず自然なかたちのGHとしての看板を設置した。		ゴミなどで景観を損ねないよう綺麗な玄関周りに努める。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間において不快な音や光はなく、テレビも状況に応じて音量を調節したり消したりしている。照明も屋内の明るさに合わせて調節している。季節感を出すために季節ごとの装飾をしている。生活感を出すために皆が馴染んでいるもの、使い慣れているものを継続して使用している。		共有スペースのこまめな整理整頓。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング脇にソファとテーブルを設置したり、皆で過ごす場所より少し離れたところにソファを置くなどして気に合う利用者同士で話せたり周囲の目から逃避できるような空間がある。		現状維持。

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具の設置、その人の好みのものを置いている。家族の協力を経て居心地よく過ごせるようにしている。		本人の意向を崩さないようにしながら居室整理を行う。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	夏冬期間は冷暖房調節をこまめに行なっている。換気扇24時間使用。掃除時には換気している。乾燥期には加湿器を使用し、湿度コントロールを図っている。		換気扇掃除を定期的に行なっている。臭いに関しては継続的な課題として取り組んでいる最中。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除や洗濯干し、調理など利用者が役割活動を行う際に対象物を利用者に合わせて調節したり、自立して生活できるような工夫・働きかけをしている。		調理場が少し高いので、活動場所をリビング中心に行なっている。
86	○分かる力を活かした環境づくり 一人ひとりの分かる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	できること・できないことを把握して、そのときの状態に応じた支援ができるように記録に残したり職員間の情報共有に努め、自己決定の場を大切にしている。		その人が選べるレベルまで選択肢を狭めて、極力自分で選べるようにするなどして働きかけている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にベンチを設置、プランターに花を植えたりしている。花壇にも花を植えている。畑もあり、全て利用者が中心となって活動している。縁側もあり、散歩帰りの休憩や日向ぼっこに利用者が自由に活用している。		玄関前のスペースでボール遊びをしたりなど利用者もスタッフも楽しんで活動し、空間を大いに活用している。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる	○	①ほぼすべての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼすべての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼすべての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出掛けている	○	①ほぼすべての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼすべての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼすべての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼすべての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームになじみの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼすべての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼすべての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼすべての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自己評価書

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取組を行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めてください。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- グループホームの自己評価は、各ユニットごとに行います。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日ごろの実践や改善への取組を示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支え合い	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取組の事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取組状況を具体的かつ客観的に記入します。
(実施できているか、実施できていないかにかかわらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○を付けます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取組内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ひまわり
(ユニット名)	ほのぼの
所在地 (県・市町村名)	宮城県仙台市泉区住吉台西4丁目3-1
記入者名 (管理者)	庄司 浩介
記入日	20年 10月 20日

地域密着型サービス評価の自己評価書

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくり上げている</p>	事業所独自の理念だが、「事業所の利用者」ではなく、「地域住民として」ということを意識した理念を掲げている。	○	開設当初からの理念であるが、今年度スタッフにおいて見直しを行い、現時点での理念の変更等は必要なく今の理念をさらに追求したいとの意を込めて変更はしていない。
2	<p>○理念の共有と日々の取組</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	会議等で理念の見直しを行い共有を図っていると同時に、理念の実現に向けて各カテゴリー(食事・入浴等)で具体的な支援目標を作成し、支援を行なっている。	○	理念の更なる実現をめざすために、スタッフ全員が共通の方向性を持てるように努める。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	利用パンフレットや広報誌に理念を掲載しているとともに、ホームの玄関や事務所にも分かりやすく掲示している。	○	理念を更に理解してもらえるように、状況に応じて分かりやすく具体化して家族や地域の方々に発信していく。
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所との付き合い</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的な付き合いができるように努めている</p>	近所の方々への日々の挨拶をはじめ、回覧板を回しに行ったりして気軽に声を掛け合っている。また近所の方が子どもを連れて遊びに来てくれたりしているので、それらの機会を大切にし日常的な付き合いできるように努めている。	○	気軽に立ち寄ってもらえるような働きかけや工夫を更にする必要がある。
5	<p>○地域との付き合い</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域の一員という意識を持ち、地域で行なわれる行事その他には積極的に参加するようにしている。		コミュニティーセンター、児童センター、小学校の防犯、町内会行事(夏祭り、芋煮会、地域清掃等)、ゴミ集積所の掃除当番などへの参加を継続している。

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域でのひまわりの存在のアピールはできているが、地域に貢献できるような具体的な活動はまだできていない。	○	散歩時にゴミ拾いをするなどしているが、地域高齢者を対象としてという活動はないので考えていく。町内会の方からは、地域行事において、車椅子講座などはどうか、というお話がある。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を2ヶ月に1回実施して、定期的なサービス評価を行なっている。	○	自己評価が定着してきたが、その評価を活かしきれいでないので評価の活用を行なっていく。
8	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月1回運営推進会議を開催、地域の方やご家族に利用者やサービスの実態、取組み等を報告して話し合いを行なっている。その際、ご家族や地域の方からいただいた意見を受け入れ、活かしている。		現状維持。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居の紹介を受けたり、入居後の情報提供等、入退居に関することについて相談に乗ってもらった。		現状維持。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	1ヶ月に1回の内部研修において、成年後見制度などの制度の研修も行い、職員も学べる機会を作っている。		全職員が学べるような機会を作っている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームの委員会の「守」で事故対策及び虐待について話し合いが行なわれ、内部研修でも身体拘束や虐待についての勉強会も行い、意識啓発に取り組んでいる。		委員会メンバー以外の全スタッフにも学べる機会を作っている。

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	提供できるサービスの限界を伝え、利用者や家族の意見や疑問に合わせて、十分な話し合い新たなサービス提供の提案などを行い、出来る範囲での不安や疑問の解消を行っている。また、利用後の相談窓口の案内を行なっている。		利用開始時に管理者以外での窓口を案内することで、管理者が不在時でも相談ができる体制をおき、疑問や不安が解消するまでは同一スタッフでの対応としている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員及び外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の不満は、個人の連絡帳へ内容を記載して対応も記載している。スタッフ間での統一した対応を行なう。また、内容によっては運営推進会議にて報告している。		利用者からの不満は苦情・アドバイスとして受け止めて、ユニット会議や運営推進会議にて報告している。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回で利用者の写真付きのポストカードを作成し、裏にメッセージを記入して生活状況を報告している。金銭出納帳とレシートなどと一緒に月初めに送付、面会の少ない家族に関しては管理者から電話や書面を使用して近況報告を行う。また、ホームページを作成してインターネットでの連絡もできるようにしている。		スタッフの異動についても広報誌にて連絡を行なっている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員及び外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や不満、苦情は随時受け付けており、運営推進会議での取り上げや事前に意見書にて意見の確認を行なっている。		今年度は運営推進会議に家族参加が増えて、直接意見が引き出せているので、意見書の使用頻度は減少している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聴く機会を設け、反映させている	現場の意見は経営者や管理者が職員の意見を聞き状況の把握を行い、経営者との話し合いを随時行なう。また、ユニット会議や委員会で提案して確認を取っている。		常に向上心をもって意見を言い合える環境作りに努めており、ユニットリーダーと管理者の連携強化でRノートを作成して細かい摺りあわせを行なっている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	基本的には勤務時間内での対応を行なっているが、用途や状況に応じて調整し、時には隣のユニットの協力を依頼したりと出来る限りの実現を行なっている。		退職後の補充が十分にできない状況が続いているが、人員確保と同時に退職者がでない環境作りを強化する。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者がなじみの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間での行き来を適度に行ない、異動に関しての利用者の不安の軽減に努めている。退職の際は周りのスタッフで協力してメンタル的なダメージの軽減に努めている。		退職者の出ない環境作りが重要となるが、退職者から利用者への説明なども指導していく必要がある。

項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取組</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修などに積極的な参加を行っており、報告書・会議での報告にて全スタッフへ周知している。また、月1回でスタッフの学びたいことや日々の悩みをテーマに内部研修を行い研修の機会を確保している。</p>	<p>現場のスタッフ内での現場でのリアルタイムな指導が出来るように、スタッフの関係性やスキルアップを行なえる研修内容も組み込んでいく。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている</p>	<p>外部研修やGH協議会などで知り合った同業者との交流を図り、相互訪問や意見交換を行い、今年度はスタッフ交換研修を行なった。</p>	<p>今後も交流機会を持ち、継続的な関わりができるように情報交換を密にしている。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取組</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>管理者は利用者、スタッフの気持ちの理解に努めて、具体的な方法や対応策を打ち出して、困難ケースなどへの対応のきっかけを作ることで、負担の軽減を図っている。</p>	<p>利用者の思い、スタッフの思い、家族の思いを受け止めて、今出来ることや可能なことを実現できるように環境を作り、支援体制を作っている。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取組</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>管理者は基本的に年1回の面談を行い、個人の目標達成の評価やアドバイスを行なう。また、それ以外でも個別に状況に応じて方向性を面談を行い再確認や目標に再設定を行っている。</p>	<p>各自が各自の能力を十分に発揮できるような働きかけを継続的に行なう。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている</p>	<p>何が不安なのか明確にしてそれについて事業所はどのように対応していくのか納得するまで説明している。まずは利用する本人の理解を心がけ、必要に応じて利用までに何度か訪問して顔を覚えてもらうようにしている。</p>	<p>利用者本人が何に不安を抱いていて何に困っているのかを聞くことができる雰囲気作りに努めている。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている</p>	<p>利用者同様にまずはゆっくり話を聞き、家族がどのようなことで困っているのか、どうしてほしいのか等の相談を受け、家族が理解できる言葉で話をし、信頼関係を築いていく。</p>	<p>家族が何に不安を抱いていて、何に困っているのかを聞くことができる雰囲気づくりに努めている。</p>

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時は状況や状態を踏まえて、今GHとして出来るサービスや必要なサービスを具体的に説明を行い対応している。		見学も含めて事業所のことをよく見て、よく聞いて理解してもらえるように努めている。
26	○なじみながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になじみながら家族等と相談しながら工夫している	可能な限り本人への理解と説明を進め、本人も実際見学に来ていただくように相談をしている。		気軽に見学に来れる環境作りと本人の意志を尊重することを大切にしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支え合う関係を築いている	基本的に物事は一緒に行くことを意識しており、「してあげる」ではなく「一緒に行く」ことを実行している。利用者ができないことは職員が手助けをし、料理面など利用者から学ぶことがたくさんあり支え合って生活している。		学ぶ機会を大切にし、現状維持に努める。
28	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係は少しずつ深まっており、面会時や行事、運営推進会議などにおいて情報を共有し喜怒哀楽を共にしている。		家族との会話の機会を大切にし、現状維持に努める。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	少しずつ、家族と本人の関係を知るようになってきており、関係の継続に努めるようにしている。	○	家族間の仲があまり良くないような場合は、それ以上悪化しないように努める。
30	○なじみの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきたなじみの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	実家やよく行った場所など馴染みの場所には個別外出として出掛けている。馴染みの人に関しては、電話が来たり面会に来たりして関係継続されているケースもある。	○	馴染みの人との関係継続が出来る人には積極的に手紙や電話等を通じて関係継続できるように努める。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士がかかわり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の口論が見られるが、利用者同士の関係を把握しており極力口論になる前に介入できるような予防的な対応に努めている。また、1人で過ごすことが好きな方にも孤独にならないように仲介している。		予防的な介入、フォロー、アフターケアの現状維持。

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている	サービス利用終了時には直接的な支援はできないが、相談やアドバイスの関わりは行なえることを説明している。		現状維持。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から、本人の意向や希望を汲み取るようにしている。困難な場合でも、選択肢を設けたり表情や言動で見るなど極力本人の意思を確認するようにしている。		現状維持。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴やなじみの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴などの把握をアセスメントや家族からの情報を基に把握して、日々のケアに活かせるようにしている。		その情報を家族を交えて確認していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々のケアから現状を把握し、記録にも残すようにしている。		心身状態や有する能力に関して更に把握に努める。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアの在り方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人のプランとして考えており、ライフプランと位置づけて、本人のここでの生活ということで立案している。また、本人との何気ない関わりの中で本人意向を確認して、家族との何気ない会話の中で家族の意向を確認している。		プランの中で本人やスタッフが出てくることは多いが、家族が出てくるのが少ないので、家族協力も積極的に働きかけていき、本人、家族、地域、スタッフが協働できるプランとしている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月ごとの見直しをベースとしており、状況に応じて見直しの時期を調整している。また、必要性を家族と話し方向性を決めてすすめている。		リスクマネジメントも含めて予見して、予防の視点を持ってはやめの検討ができるように日々の観察を強化していくとともに家族への説明も行なっている。

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気付きや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日「声や表情・気持ち・行動など」「パートナー(介護者)の気付き・対応」のように分けて記録している。また、記録のほかにスタッフ同士で直接伝達したりと、情報の共有に努めている。		介護計画に沿ったケアを実施、記録も介護計画に沿った記録を行なうように努めている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況に応じて、どのような支援が必要かを明確にして柔軟な支援ができる準備を行っており、必要に応じては他事業所や家族、地域の協力を得るように意識している。		現在の事業所の可能なことを明確にして、機能の開発や地域の資源の発掘を行ない、包括的に支援できる体制を強化している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向や必要性を基に、ボランティア、警察、消防等に協力を要請している。		民生委員の協力など、また新たな関係を構築していく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現状として他サービスの利用はない。		介護保険外のサービス(訪問歯科等)のサービスの利用や開発を行なっていく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議で2ヶ月に1回でサービス状況を報告したり相談したりして行っている。また、管理者が地域包括に定期的に訪問して連携を取ったり、地域包括主催のネットワーク会議に参加している。また地域包括より認知症ケースの相談受けたりして連携を取っている。		地域包括での介護予防活動で「認知症」のテーマでの活動を行なっていこうと話している。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に慣れ親しんだ医師(医療機関)による診察の継続的な支援をしている。		現状維持。

項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		<p>認知症の個々のタイプに合わせた治療ができるように</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		<p>現状維持。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>退院に向けて情報収集を強化して、退院後すぐに支援できるように、どんなケアが必要かなどを話し合う機会を設けている。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期の在り方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>本人や家族に悔いの残らない生活を送ってもらえるような支援を継続する。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>報告・連絡・相談の流れを更に強化していく。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>在宅復帰のために、行政(障害高齢課)や福祉事務所、地域包括支援センターと連携して、在宅支援と在宅生活開始後のサポート体制を検討した。</p>

項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「さりげなく」を基本に声がけ、言葉遣い、あからさまな介護にならないように気をつけている。個人情報の取り扱いについても個人が限定されないよう配慮している。	○ さりげない気配り、心配りがまだまだできていない。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働き掛けたり、分かる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	様々な場面での自己決定がえられる機会を作っている。また個人の能力に合わせて選択しやすい働きかけを行なっている。	現状維持。さらにひとりひとりに合わせた対応ができると良い。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	各利用者のその日の予定、ペースがあるため、こちらからの行事や受診の予定は前もって伝えておき、本人のペースを崩さないよう努めている。	個人個人の生活が集まった集団となっているが集団での活動も取り組んでいくために、もっと事前にお知らせして参加率や楽しみの共有を高めていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容に関して、基本的には好きな理美容店の利用を勧めているが現状としては地元の理美容を利用している。	リビングを公共の空間と考え、部屋から出るときは身だしなみを整えるといった意識を持っていただけるように支援している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に調理を教えてもらいながら一緒に作り、一緒に食事をとる。食器洗いや食器拭きは基本的にスタッフと利用者が一緒に行っている。	○ 利用者が食べたいと思う食事の提供。見た目、味、栄養のバランスの取れた食事作りを目指す。また、献立や調理を工夫する必要がある。
55	○本人のし好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒やタバコの習慣のある利用者に関しては、過剰にならない程度に、楽しみの一つとして味わっていただいている。おやつは利用者と一緒に買い物へ行き選んでもらったり、昔のおやつを手作りしている。	一人一人の嗜好に合わせた楽しみの提供ということで、個別で飲み屋や喫茶店に行く計画をしていきたい。

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排せつの支援 排せつの失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排せつのパターン、習慣を活かして気持ちよく排せつできるよう支援している	トイレの頻度を全利用者、記録として残している。自らトイレに行けない利用者には、排泄のシグナルをキャッチし、トイレ誘導を行なっている。		個人のリズムの体調との兼ね合いも視野に入れて、日常的な変化も意識して排泄ケアを行なっていく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日提供を意識しており、利用者ひとりひとりの希望の時間に入浴ができるよう日々調節している。		入浴拒否がある利用者に対して、何が原因で拒むのか、どうしていけばいいか等その都度話し合っていかなければならない。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝前のおやすみなさいと挨拶を交わすとき、夜勤者がいるから安心していただけるように笑顔で穏やかに、を心掛けている。	○	悩みや不安を抱き、眠れなくなった場合、スタッフに気軽に相談できるような信頼関係を構築していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	昔遊んだもの、ならったものや趣味などから気晴らしができるように、日々コミュニケーションから好きなことが何なのか把握することに努めている。		馴染みのものやその他にも新たに好きな物事を発見していける関わりを持っていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は基本的に金庫管理だが、ほんにんがお金を使いたいときに渡したり、小額を自己管理している方もいる。		買いたい時に買えるように支援していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出掛けられるよう支援している	天気や体調に合わせて利用者と散歩している。利用者の「今散歩に行きたい」という思いを大切に、なるべく希望通り散歩をしている。		いつも決まったコースを散歩するのではなく、近所との交流を図ることを目的に地域交流の場にも足を運んでいきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出掛けられる機会をつくり、支援している	実家へ墓参りに行ったり、ピクニック等も家族と協力して行なっている。個別行事でも本人がどこへいきたいのかを普段の会話から引き出し、実行に移している。		9名全員の平等のとれた行事、外出支援を行なっていく。

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて家族、友人に電話をしている。話しやすい雰囲気や外部に漏れないように居室でかけてもらう等配慮している。		暑中見舞いや年賀状など季節のお便りを送ったり、利用者から家族へハガキも送っている。
64	○家族やなじみの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人のなじみの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は朝から夜までいつでも可能とし、誰でも気軽に足を運んでもらえるような雰囲気作りに励んでいる。		訪問者に対して居心地よく過ごしてもらうための空間作りに努めていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及びすべての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止についての基礎知識や禁止の対象となる具体的な行為のプリントを事務所に貼ったり職員に配布したりして意識を促している。また、守の会で現状や知識の確認を行なっている。		現状維持。
66	○鍵を掛けないケアの実践 運営者及びすべての職員が、居室や日中玄関に鍵を掛けることの弊害を理解しており、鍵を掛けないケアに取り組んでいる	居室の鍵はなく、日中玄関に施錠することは全くない。		鍵をかけずに対応できるように、玄関の前の扉には違和感がなく自然な音が出る鳴り物を設置している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	見られているということを感じさせないように、同じ空間にいながら状況把握に努めている。居室を中心に過ごされる方や死角にいる利用者の安全確認も自然な形で介入するようにしている。		利用者のそのときの心理状態を把握し、関わり過ぎないように気をつける。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取組をしている	個々の認知症の程度に応じて必要最低限の管理をさせていただいている。		ユニット内にある注意が必要なものも、あらかじめ在庫確認しておりなくなったときに変化に気がつけるようにしている。
69	○事故防止のための取組 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	守の会において、ヒヤリはつとやアクシデントレポートのリスクマネジメントを行い、同じことが起こらないように事故防止に努めている。	○	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等が起こったときのマニュアルを明確に提示したほうが良い。

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、すべての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	現状としてコミュニティーセンターでの救命講習に参加している。		ホームでの救命講習の開催を実施していき、スタッフだけではなく利用者の参加や見学を進めていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろから地域の人々の協力を得られるよう働き掛けている	火災、地震時を予測した避難訓練を毎月1回実施している。本当の地震があったときに隣人から声をかけてもらえることもあり、協力を得られている。	○	夜間想定 of 訓練は今後随時実施していく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こり得るリスクと安全対策の説明を契約時に行い、家族にもリスクの把握を理解していただいている。また状態変化に伴ってその都度説明を行なう。		家族の協力をいただけるように家族との連携を密にして最小限リスクと最大限の自由を支援する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を把握した上で、状態に変化が見られたときは看護職員に相談し適切な対応を仰いでいる。また管理者へも報告しスタッフ間の情報共有にも努めている。		現状維持。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が使用している薬の目的を理解している。分からないときには随時確認するようにしている。	○	副作用については理解に至っていない。確認する機会の確保。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働き掛け等に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響を理解しており、薬に頼らない排便コントロールを心掛けてそれでも改善されない場合は看護職員と相談し、その人に合った適切な下剤の活用を行なっている。		排便コントロールとあわせて、身体を動かす工夫を更に継続していく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ひとりひとりの口腔状態に合わせ、毎食後に口腔ケア(歯磨き・うがい)を行なうようにしている。		現状維持。

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランスに関しては管理栄養士にチェックしてもらっている。水分量も体重から目標水分摂取量を算出し、ひとりひとりの状態に応じた支援をしている。		現状維持。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	各感染症対応マニュアルがある。インフルエンザにおいては、予防接種を行なっている。	○	さらに理解を深めるためにマニュアルをどう活用できるか考える。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所や調理器具、冷蔵庫等の衛生管理を毎日行なっている。食材の関しても毎日の買い物で新鮮なものを提供するようにしている。		現状維持。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には各ユニットの手作り看板設置、手作りのポストや季節の花等を飾り明るい雰囲気ですっきりとした玄関まわりになっている。また、目立ちすぎず自然なかたちのGHとしての看板を設置した。		ゴミなどで景観を損ねないよう綺麗な玄関周りに努める。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間において不快な音や光はなく、テレビも状況に応じて音量を調節したり消したりしている。照明も屋内の明るさに合わせて調節している。季節感を出すために季節ごとの装飾をしている。生活感を出すために皆が馴染んでいるもの、使い慣れているものを継続して使用している。		共有スペースのこまめな整理整頓。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング脇にソファとテーブルを設置したり、皆で過ごす場所より少し離れたところにソファを置くなどして気に合う利用者同士で話せたり周囲の目から逃避できるような空間がある。		現状維持。

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具の設置、その人の好みのものを置いている。家族の協力を経て居心地よく過ごせるようにしている。		本人の意向を崩さないようにしながら居室整理を行う。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	夏冬期間は冷暖房調節をこまめに行なっている。換気扇24時間使用。掃除時には換気している。乾燥期には加湿器を使用し、湿度コントロールを図っている。		換気扇掃除を定期的に行なっている。臭いに関しては継続的な課題として取り組んでいる最中。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除や洗濯干し、調理など利用者が役割活動を行う際に対象物を利用者に合わせて調節したり、自立して生活できるような工夫・働きかけをしている。		調理場が少し高いので、活動場所をリビング中心に行なっている。
86	○分かる力を活かした環境づくり 一人ひとりの分かる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	できること・できないことを把握して、そのときの状態に応じた支援ができるように記録に残したり職員間の情報共有に努め、自己決定の場を大切にしている。		その人が選べるレベルまで選択肢を狭めて、極力自分で選べるようにするなどして働きかけている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にベンチを設置、プランターに花を植えたりしている。花壇にも花を植えている。畑もあり、全て利用者が中心となって活動している。縁側もあり、散歩帰りの休憩や日向ぼっこに利用者が自由に活用している。		玄関前のスペースでボール遊びをしたりなど利用者もスタッフも楽しんで活動し、空間を大いに活用している。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる	○	①ほぼすべての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼすべての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出掛けている	○	①ほぼすべての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼすべての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼすべての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼすべての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームになじみの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼすべての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼすべての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼすべての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

個々のタイムスケジュールを把握して個人の時間と集団の時間をそれぞれ設けて好きなことに時間を費やすことができるように努めている。